

I Z U M O から 21世紀を拓く人間経営学

一般財団法人人間自然科学研究所 理事長
小松電機産業株式会社 代表取締役

小松昭夫

出雲には自然がバランスよく残っています。山水があり、いつも宴が催され、雲出する国。そんな「IZUMO」からの提言です。私は過去に多くの失敗を重ねてきました。失敗の数だけいろいろな事を学ぶことができました。失敗は途中でやめると真の失敗になります。やり続けることにより成功体験を経て、一プロセスとなります。

死から生へ、生から死へ。人生はプロセスです。

私の人生に最も大きな影響を与えたのは、この失敗への飽くなき探求心と、子どもの頃の貧しきからいかにして腹が減らない生活を築き上げるか、自分だけでは家族の腹を満たさなければいけない、さらにもう一つは恩師からいただいた「人間は正直に生きよ」という「天知る、地知る、我知る」という言葉です。これらのことが私という人格を作り上げるのに大きな影響を与えてきました。

◇リーダーの条件

リーダーの役割は二つあります。一つは場を作ること、もう一つはその場の中で目的を見出し、目標が定まるように導き、それをどう具現化するかを導き出すことです。校長は、場と仕組を作る帝王学。ナンバー2である教頭の仕事は後ろ姿で他の先生はじめ、生徒を導く宰相学。この二つの役割分担がうまく機能すればあらゆる組織はうまくまわるはず。リーダーの条件には社会のいろいろな矛盾に気づく気づきの力、

決断力がとくに必要です。これらの力はどのようにして培われるのでしょうか。

身近な問題でかつ根源的な大きな問題である「三回の大きな戦争、そして人類では初めての原爆投下、決定的敗戦を体験した日本が、学校で近代史を掘り下げて教えていない」……これはどういうことなのでしょう。

新しい試みをする事によって人はいろんな事に出くわします。いろんな失敗をします。このことが様々な出来事に気づく自分を作るのです。逆に、失敗や新しい試みをするのではなく、子ども達に教材を豊富に与え、立派な校舎で暗記教育によつて競争をさせる教育システムにすれば、どうなるでしょうか。先見性が欠如し、創造力がなく、知と体験の蓄積が出来ない、気づかない人間を作ってしまうのです。

ここで、物の本質を見抜く力についてお話ししたいと思います。物の本質を見抜く力を培うには、物事を考える時、「視点」「観点」「論点」の三つが必要です。「視点」は内を見ることがです。まず、自分自身の内なる視点はどこにあるのか。そして、相手の視点はどこにあるのかを考える。相手の言動だけで反応せず、こういうことをした意図はどこにあるのか。自分と相手の内なる視点をあわせて、互いの点と点を時間の経過の中でその意図を考える。時間の経過を考えていくと「観点」となり、いくつかの観点をあわせてみると、物の本質が見えてきます。そして、適切な時期に、相手が理解してもら

える言葉を発することで、相手の心を打つわけであり。これが「論点」です。この物の本質を見抜く力も重要なリーダーの条件と言えます。

また、先見性もリーダーとしての重要な条件です。現在は国際化の時代。日本は、エネルギー、食料の大半を輸入しています。そういう現状のなかで日本人が生きていくには、平和ということが不可欠な条件です。しかし、現在まで日本は、逆に戦争を糧にして豊かな国を作り上げてきました。朝鮮戦争を入口に、戦後、敗戦国として世界でも類例のない生活が送られる国になりました。まず、我々はこのことが周囲の国からどのように見られているかを知らなければ、自分達の足元からあらゆるものが崩れ去ってしまいます。なぜ、日本が戦争を始めたのか。なぜ、日本が戦争に負けたのか。それぞ

れの結果からプロセスを考える。教育に携わる皆さん、日本の歴史教育の学習において、なぜ戦争をしたのか、そのプロセスについて議論をしないといけません。「あなたがナポレオンなら、この時どうしますか」「私がナポレオンだったらこうする」というように歴史を自分の中に取り込んで議論をしていくことが大切です。私は必ず結果に至るプロセス（経過）があるはずと考えています。物にはきっかけがあり、それが生まれる経過があり、背景があります。そして現状。そういうものの中から未来が見えてきます。これが先見性となるのです。

◇教育は何のためにある？

一、飢餓を効率的に脱するための人材を作るため

人は進化のプロセスの中で「依存」「自立」「相互依存」と進化してきています。これがリーダーとしての必須条件です。人は時間・空間・人間の「三間」でしか生きられません。人はこの「三間」の中で生

かされ、生きているのです。好き・嫌いの我欲の中での体験の繰り返し（依存）、この依存の状態で人が権力を握った時は悲惨な結果となります。しかし、飢餓等を経験した自立、相互依存のレベルの人が権力を握った時はそうではありません。なぜなら、先の事が見えて対処ができるからです。人は自分の周りで起こる小さな社会問題の解決化を図る中で自立をしていきます。次は大きな社会問題に関心をもち、自分の使命を自覚する中から行動を通じて、相互依存へと進化します。依存から自立へ、そして相互依存へ進化させるための教育が必要です。

二、楽しく愉快に持続的に生きられる社会を創るため

日本は高度成長を成し遂げ、大量生産・大量消費をしてきました。そして、経済的には豊かな国になりました。その結果、人心の荒廃と廃棄物の山を生み出し、誰の目にも継続不可能なことははっきりしてきました。今、「飢餓と殺戮のない社会を作るため」から「楽しく愉快に持続的に生きられる社会を創るため」の教育への転換が必要になってきています。

本日の話は、てんでわからない点でつないでみてわからないというふうな、あえて話してみたい。物を考えるたたき台として、私の話の何か一つでも取り入れてみたいと思われたいことをやってみたい。一つのきっかけとして研究会を立ち上げてほしい。わからないことは考える。考えてわからないことは聞く。聞いてわからないければ聞く相手を変えてみる。それでもわからないければ、元の人に、このことがわからないと必ず伝えておく。相手も他の人にわかるように伝えられるまで考えることが出来る。これがコミュニケーションです。小学校では、国語の時間にコミュニケーションを学習してほしい。議論をしてほしい。議論とは、共通の目的・目標を見出し、それがどういう方法で具現化していくか、

現状がどういうプロセスで出来上がったかを話し合う。当社では、内省内観を入口にしています。なぜ、あの時嘘をついたのか、他に方法はなかったのか、そういう状況を克明に思い出し（内観）、今日のまでの知識や経験を生かしていきます。そして、知識、経験が論理的につながる中で創造力が身につきます。このプロセスが愉快な人生ということになります。まず、頭を耕すこと。日常の出来事での失敗、賞賛をきっかけにして青年期により多く耕しておくことです。幼少の頃から道理を教え、体感させ、その後感情の抑制（しつけ）をし、そして正義（楽しく愉快に持続的に生きられる社会を創るための役割を担う）を貫く生き方となります。

◇何をなすべきか

21世紀に入ると、日本は世界から日本の残虐さを徹底的に非難されると思います。なぜなら、なぜ、戦争に負けたのか、どんなことをしてきたのかを反省せず、未来に生かすことをせず、私達は血のじむような努力をせずして、自由を与えられてきました。そして、経済成長にのみ走り、今日の混乱した社会を迎えたのです。今、私達が、その間置き去りにしてきた

関係諸国との戦後処理に取り組まなければ、日本は主体性がなくなり、バブル崩壊に続き、IT革命における大きな社会変動によって、内部崩壊がどんどん進んでいきます。今すぐ行動を起こさなければ手遅れになります。

議論のきっかけとして、人間にとって核がどんな意味を持つのか、ということをもっと深く掘り下げて議論していけば、その中から様々な事に気がついてくるはず。すなわち、物を考える力が育っていくのです。私達は今、後世からみれば、分岐点に立っていました。女性の進化なくして平和の持続はできません。女性校長・教頭会の活動がますます盛んになり、社会から認知される中から、日本人の果たすべき役割が見えてくると思います。社会が行き詰まった今こそ、従来の価値観を見直しながら問題の解決策を打ち出して実践していく時です。

世界人類のために何をなすべきかを考える人物を生み出すにはどうすればいいのか、教育を模索していく必要があります。山陰地方で生きる人達の今日の役割を考え、今こそIZUMOから発信していこうではありませんか。（2001年、島根県女性校長・教頭会での講演要約）

◇9月25日、八雲志人館では、松江市八雲町の意宇川畔、周藤彌兵衛翁像前に、ボランティアの皆さんのご協力を得て、「平和の花」スノードロップ（花言葉：希望、慰め）の球根を植付けました。

